

# オゾン層観測速報

平成 14 年 8 月 20 日 (1/4)

気象庁オゾン層情報センター

## オゾン全量 (2002年7月)

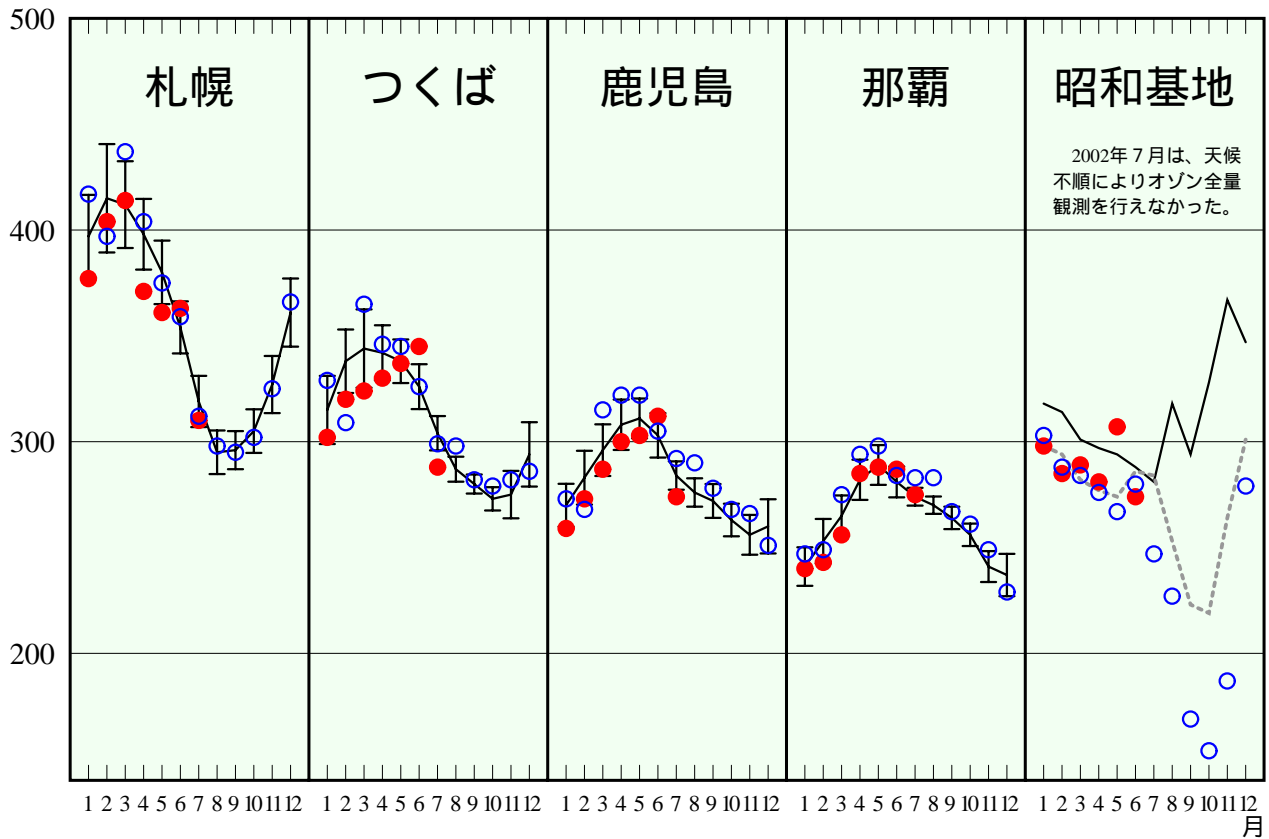
### [概況]

2002 年 7 月の国内 4 地点における月平均オゾン全量<sup>1)</sup>は、札幌、那覇で並、つくば、鹿児島で少なかった。7 月の平均値としては、つくばで観測開始以来最も少ない値を記録した (これまでのつくばの最小値は 1995 年の 293 m atm-cm)。

### [観測結果]

	札幌	つくば	鹿児島	那覇	昭和基地
オゾン全量 (m atm-cm)	310	288	274	275	
参照値 <sup>2)</sup> からの偏差 (m atm-cm)	-9	-16	-10	+1	
偏差の参照値に対する比 (%)	-2.8	-5.3	-3.5	+0.4	

(m atm-cm)



(国内 4 地点及び南極昭和基地におけるオゾン全量)

は 2002 年の月平均値、 は 2001 年の月平均値を示す。実線は参照値<sup>2)</sup>、縦実線は標準偏差を示す。昭和基地の点線はオゾンホールが明瞭に現れるようになってから (1981~2000 年) の月別平均値を示す。

- 注 1) オゾン全量：ある地点の上空に存在するオゾンの総量を表す。大気の上端から下端までの全層に存在するオゾン全てを仮に地表付近に集め、これを 0、1 気圧にしたときの厚さをいう。cm 単位での数値を 1000 倍して m atm-cm (ミリアトモスフェーム) という単位で表す。ドブソンユニット (DU) ともいう。
- 2) 参照値：1971~2000 年の月別平均値で、平均的なオゾンの状況を示す暫定的な基準。ただし、那覇では 1974 (観測開始)~2000 年、昭和基地ではオゾンホールが明瞭に現れる以前の 1961~1980 年の月別平均値を暫定的な基準とする。参照値との差が標準偏差以内にあるときは「並」、それより大きいときを「多い」、それより小さいときを「少ない」とする。

# オゾン層観測速報

平成 14 年 8 月 20 日 (2/4)

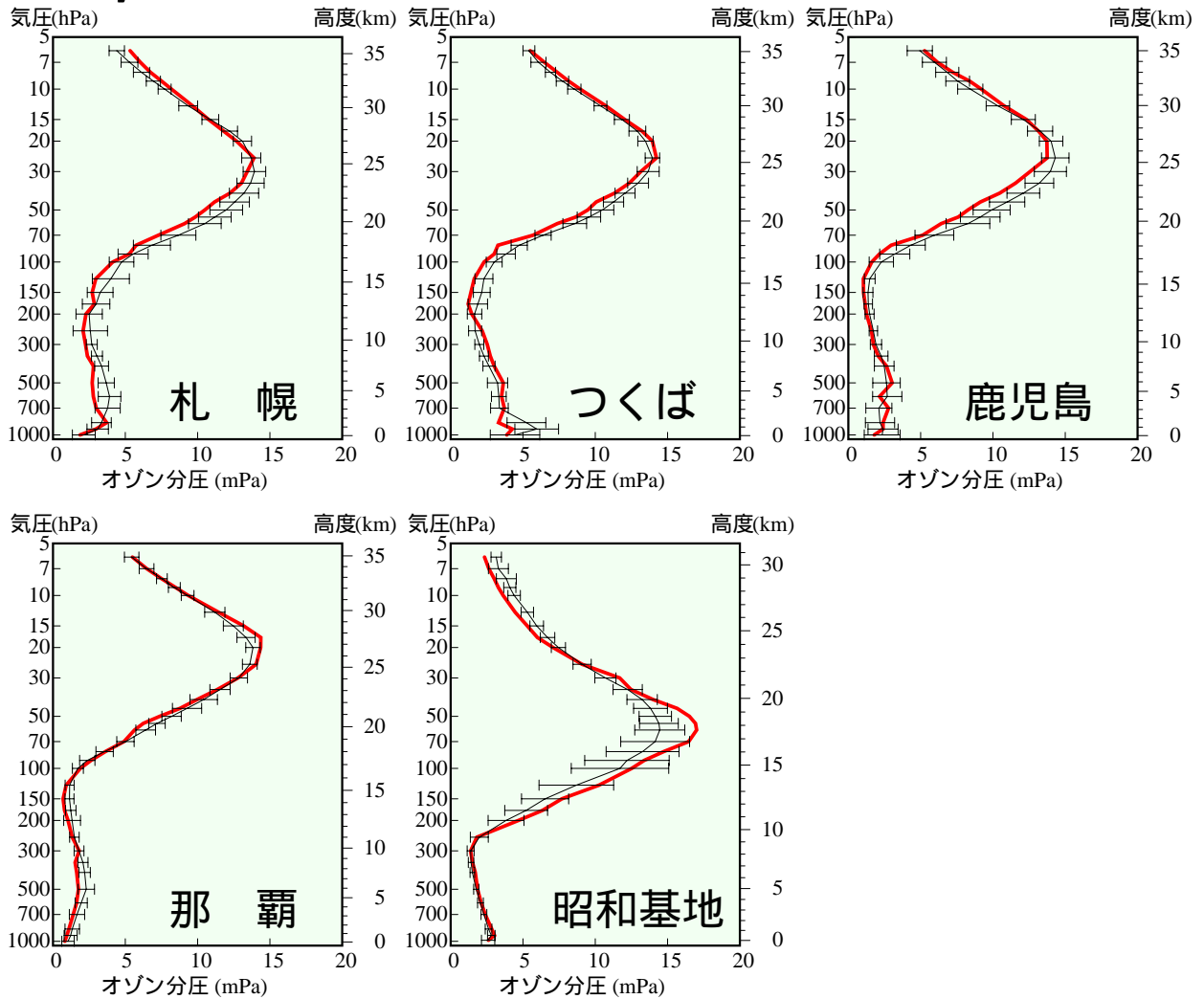
気象庁オゾン層情報センター

## オゾンの高度分布 (2002年7月)

### [概況]

2002年7月の国内4地点及び南極昭和基地におけるオゾンゾンデ観測によると、各高度のオゾン分圧<sup>1)</sup>は、札幌の高度32~34km、つくばの高度9~11km、32~33km、那覇の高度27~29km、昭和基地の高度18~19kmで高かった。また、札幌の高度4~10km、19~22km、つくばの高度1km付近、13~22km、鹿児島島の高度17~18km、20~24km、那覇の高度8~9km、13~14km、20~21km、昭和基地の高度25~29km、31km付近で低かった。

### [観測結果]



(国内4地点及び南極昭和基地におけるオゾン分圧の高度分布)

太実線は2002年7月の月平均値、細実線は7月の参照値<sup>2)</sup>、横細実線は標準偏差を示す。

- 注 1) オゾン分圧: ある高さでの大気圧力(気圧)は、各種気体成分の圧力(分圧)の総和であり、オゾンが占める圧力をオゾン分圧という。「オゾン分圧が高い」とは、その高さにおけるオゾンの量が多いということである。
- 2) 参照値: 1971~2000年の月別平均値で、平均的なオゾンの状況を示す暫定的な基準。ただし、那覇では1989(観測開始)~2000年の月別平均値を暫定的な基準とする。参照値との差が標準偏差以内にあるときは「並」、それより大きいときを「高い」、それより小さいときを「低い」とする。

# オゾン層観測速報

平成 14 年 8 月 20 日 ( 3 / 4 )

気象庁オゾン層情報センター

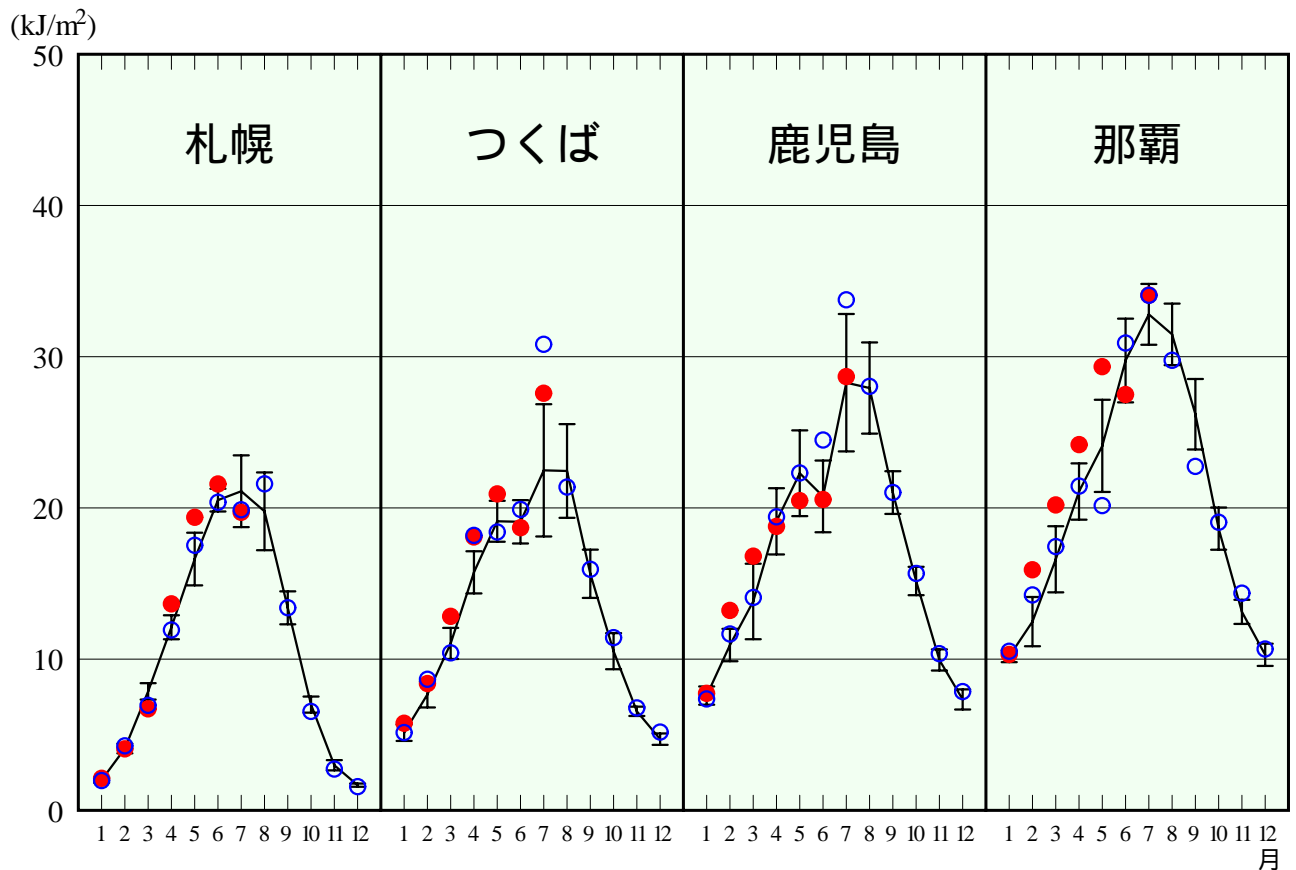
## 日積算 UV - B 量 ( 2002 年 7 月 )

### [概況]

2002 年 7 月の国内 4 地点における日積算 UV - B 量<sup>1)</sup>の月平均値は、札幌、鹿児島、那覇で並、つくばで多かった。

### [観測結果]

	札幌	つくば	鹿児島	那覇
日積算 UV - B 量 (kJ/m <sup>2</sup> )	19.71	27.58	28.68	34.07
参照値 <sup>2)</sup> からの偏差 (kJ/m <sup>2</sup> )	-1.39	+5.10	+0.40	+1.27
偏差の参照値に対する比 (%)	-6.6	+22.7	+1.4	+3.9



( 国内 4 地点における日積算 UV - B 量 )

は 2002 年の月平均値、 は 2001 年の月平均値を示す。実線は参照値<sup>2)</sup>、縦実線は標準偏差を示す。

注 1) 日積算 UV - B 量 : 波長が 280 ~ 315nm ( ナノメートル ) の紫外域日射量の日積算値。

2) 参 照 値 : 1991 ( 観測開始 ) ~ 2001 年の月別累年平均値で、平均的な紫外域日射量の状況を示す暫定的な基準。ただし、つくばでは 1990 ( 観測開始 ) ~ 2001 年の月別累年平均値を暫定的な基準とする。参照値との差が標準偏差以内にあるときは「並」、それより大きいときを「多い」、それより小さいときを「少ない」とする。

# オゾン層観測速報

平成 14 年 8 月 20 日 ( 4 / 4 )

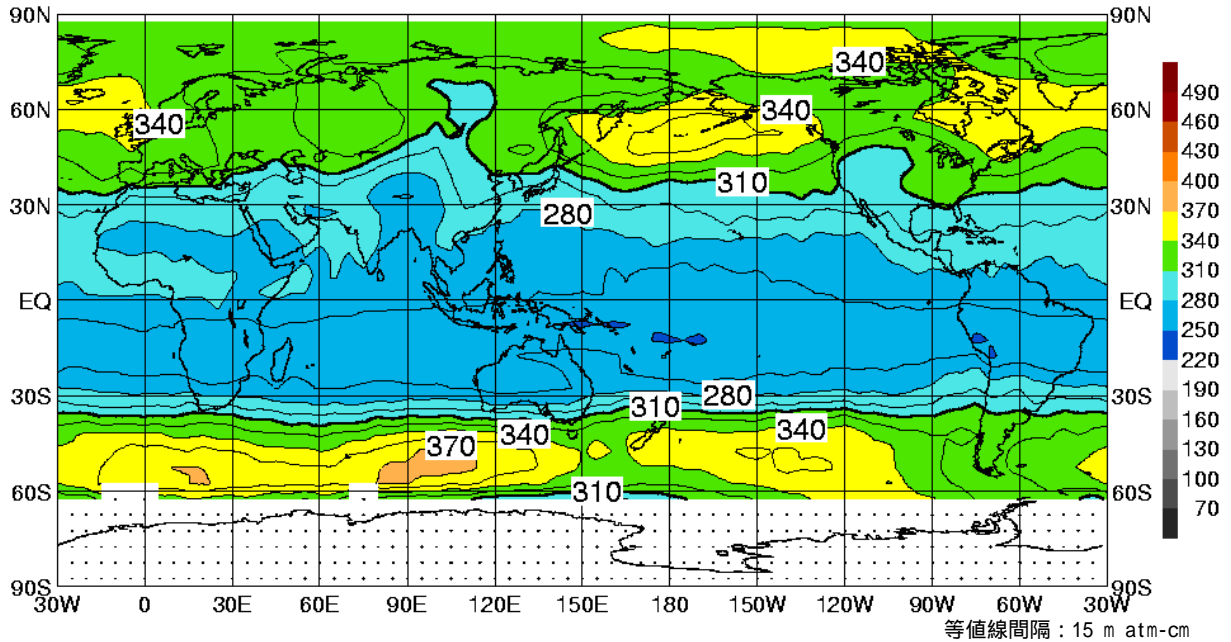
気象庁オゾン層情報センター

## 世界のオゾン全量分布 ( 2002 年 7 月 )

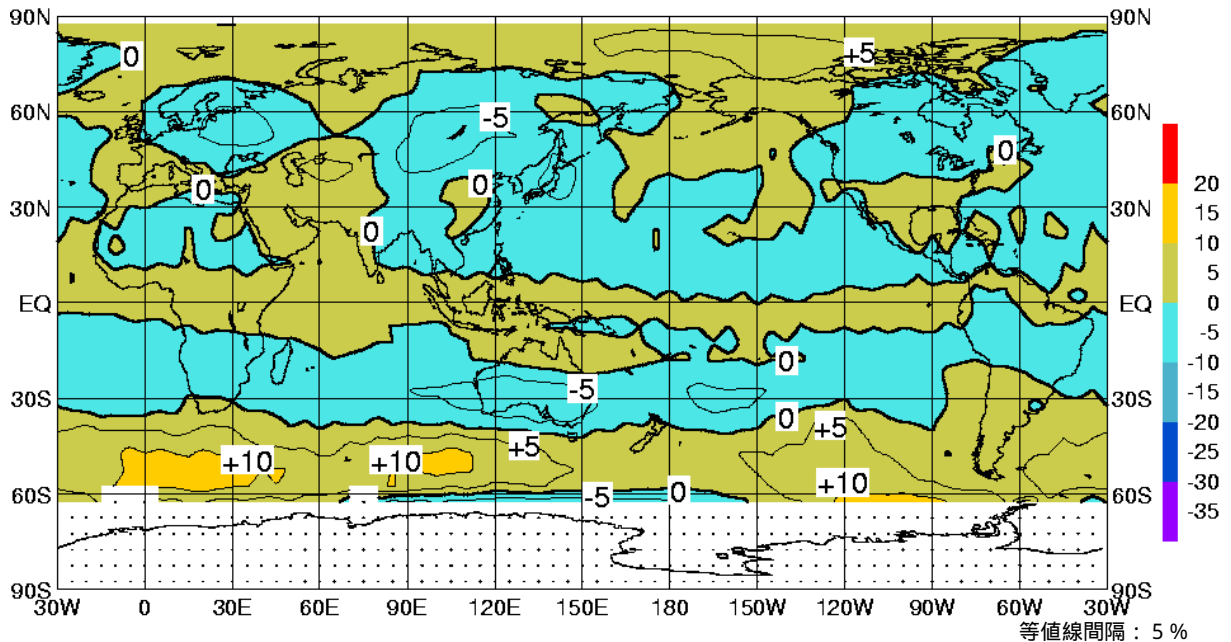
### [概況]

衛星観測資料によると 2002 年 7 月の月平均オゾン全量は、10%を超える正偏差領域が南緯 50 度付近の各地に見られた。

### オゾン全量分布



### 参照値<sup>1)</sup>からの偏差



米国航空宇宙局(NASA)のアースプローブ衛星(Earth Probe)に搭載された TOMS データ (TOMS: オゾン全量マッピング分光計) に気象庁が観測した値との比較検討を加えて作成した。

- 注 1) 参照値: 同一の衛星で得られた 1979 ~ 1992 年の月別平均値で、平均的なオゾンの状況を示す暫定的な基準。  
 2) 極域における網掛け領域は、太陽高度角との関係からデータの取得できない領域を示す。